

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

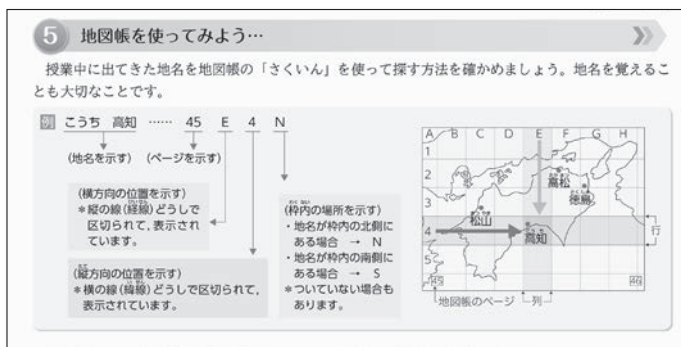
受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-76	中学校	社会科	社会（地理的分野）	第1～2学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	地理 726	<b>中学社会 地理 地域にまなぶ</b>		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

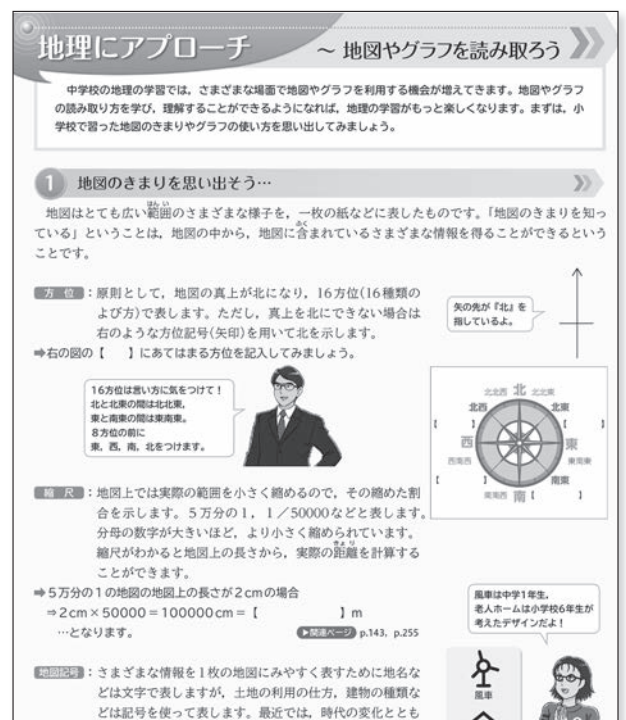
本教科書は、教育基本法に示された「教育の目標（第二条の第1～第5号）」と、学習指導要領に示された「地理的分野の目標」を達成し、社会科のねらいである「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことを目指して、以下の趣旨に基づき編修しています。

### ◆ 市民的教養としての基礎・基本が身に付く教科書

- 生徒が、市民社会を共に築いていくうえで必要な知識や技能を、自らの関心・意欲に沿って無理なく習得することや、その後の学習や社会生活のさまざまな場面に応じて活用することができます。
- 生徒が、他者とのコミュニケーションを通じて、自分の言葉で表現する力を涵養し、社会的な見方や考え方を深め合うことができます。



▲p.8「地図帳を使ってみよう…」



▲p.6「地図やグラフを読み取ろう」

「地理にアプローチ」は、教科書の冒頭では小学校時の社会科の学習の振り返りのために、教科書の本文中では、地理の学習に不可欠な地図やグラフの使い方・見方を身に付けるために設けています。こうした学習を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うようにしています。

## ◆現代社会のしくみや課題を読み解く教科書

○生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的な見方や国際的な見地から考察し、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養うことができます。

○生徒が、自分なりの枠組みで社会や世界をとらえ直し、自己との関わりを考えて、今日的な課題の所在やその解決について探究することができます。

▶「日本の国土の広がり」では、領土をめぐる今日的課題や、領土・領域などについて理解を深めます。こうした学習を通して、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしています。



▲p.128「日本の国土の広がり」

## ◆主権者として共に生きる力を育む教科書

○生徒が、自らも社会を形成していく市民の一人であることへの自覚を高めることができます。

○生徒が、責任ある主権者として社会に参画しようとする意思を培い、多文化共生と持続可能な社会の創造を旨として関わり続けることができます。

▶「災害から身を守るために」では、自然災害について防災対策だけでなく、自分たちがどのように関わればよいかを考察します。こうした学習を通して、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うようにしています。



▲p.149「災害から身を守るために」

また、本教科書は、特に以下の点にも留意して単元構成や教材の選定を行っています。

### 日本の多様な伝統・文化に対する認識を深め、市民として地域を創造できる教科書

▶こうした学習を通して、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養うようにしています。



▲p.237「震災を乗り越えて」

## 2. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法第二条に示された教育の目標及び学習指導要領に示された地理的分野の目標を達成するために、以下の柱と三つの方針に基づき編修しています。

地理を学ぶ“楽しさ”を実感しながら、地域の特色や、そこに生きる人々のすがたについて**確かな理解**を図ります。

市民的教養としての基礎・基本を身に付けるために…

### 編修の柱

## 社会とつながる自己を見つめ、市民社会を共に創造する子どもの育成

地理的事象を多面的にとらえるなかで**多様な見方・考え方を**培うとともに、グローバル化する世界・日本・地域の動きを関連づけて考察し、**自分の言葉で表現する力**の育成を図ります。

現代社会のしくみや課題を読み解くために…

郷土や日本の**伝統・文化**に対する**愛着**を深めるとともに、主権者として**地域社会に参画**する意思や、**持続可能な多文化共生社会**を創造する態度の育成を図ります。

主権者として共に生きる力を育むために…

## 3. 対照表

図書の内容・構成と教育基本法第二条の第1号から第5号との対応を示します。

教育基本法第二条

- 〈第1号〉幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 〈第2号〉個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 〈第3号〉正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 〈第4号〉生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 〈第5号〉伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。



教科書の単元構成		特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭：世界のさまざまな風景 ―世界遺産 地理の学習を始めよう 触れて読む地図を知っていますか？		○ 世界と日本の各地の様子を豊富な写真資料を用いて、取り上げ、地理への関心を高めるように構成しました。(第1号) ○ 実際に触れる点字加工を施し、ともに生きる社会のあり方について興味を喚起するように工夫しました。(第3号)	○巻頭①～④ ○巻頭⑤
第1編 世界のさまざまな地域	<b>第1章 私たちの地球と世界の地域構成</b> ①地球、そして世界へ… ②200近くの国々からなる世界 ③国名や国旗から世界を見ると… ④地球儀に引かれた線は… ⑤地球儀から世界地図へ	○ 各国の国名や国旗などを学ぶことで、伝統・文化の意義とその継承についての理解が深まるようにしました。(第5号) ○ 地球儀や世界地図の読み取り方を学ぶことで、小学校での学習内容をさらに深め、整理できるようにしました。(第1号)	Op.12～17 Op.18～22
	<b>第2章 人々の生活と環境</b> ①地域によって気候が変わる ②赤道に沿った暑い世界 ③植物の少ない乾いた世界 ④季節の変化が明らかな世界 ⑤氷と白夜の世界 ⑥標高が高く空気の薄い世界 ⑦さまざまな言語と人々の暮らし ⑧さまざまな宗教と人々の暮らし	○ 世界各地の人々の労働の様子を取り上げ、地域の自然・社会条件と暮らしとの関わりについて興味・関心を高めるようにしました。(第2号) ○ 世界の民族・宗教と社会との関わりを通して、多様な価値観や文化に対する理解と寛容を育むようにしました。(第5号)	Op.26～35 Op.36～39
	<b>第3章 世界の諸地域</b> 1節 アジアの多様性と経済発展 2節 アフリカの人々の暮らしとその変化 3節 統合を強めるヨーロッパの国々 4節 世界に大きな影響力をもつ北アメリカ 5節 南アメリカの開発と環境 6節 他地域と結びつくオセアニア	○ 各節頭には、世界の州の精緻な地勢図を掲載して地域を大観する学習を助け、衛星画像をはじめ、科学性や芸術性の面からも効果的に活用できる地図資料を掲載しました。(第1号) ○ 温暖化や酸性雨などがもたらす環境破壊の現状とその対策について多角的に取り上げ、地球環境問題の解決には国際的な協力はもとより、自らの行動が不可欠であることへの理解を深めるようにしました。(第4号)	Op.42, 54, 58, 68, 82, 84, 94, 96, 104 Op.47, 76～77, 81, 96～97
	<b>第4章 世界のさまざまな地域の調査</b>	○ 世界の地域調査をしていく中で、自分なりの解釈を加えたり、意見交換したりする学習活動が充実するようにしました。(第2号)	Op.112～120
第2編 日本のさまざまな地域	<b>第1章 日本の地域構成</b> ①世界のなかの日本の位置 ②日本の国土の広がり ③日本の領土をめぐる ④47の都道府県 ⑤さまざまな地域区分	○ 東アジアにおける日本の位置や、都道府県庁所在地の発達と地域区分の歴史的变化などについて、小学校で学習した内容を整理し、確認しながら進められるようにしました。(第1号) ○ 日本固有の領土である北方領土や竹島、尖閣諸島をめぐる現状について、認識を深めるように配慮しました。(第5号)	Op.126～127, 132～136 Op.128～131
	<b>第2章 世界からみた日本のすがた</b> ①変動する大地と安定した大地 ②変化に富む日本列島の地形 ③地形図を使って地形をみていこう ④四季のある気候 ⑤自然がもたらす災害と向き合う ⑥災害から身を守るために ⑦世界の人口分布と変化 ⑧日本の人口分布と課題 ⑨資源・エネルギーのかたよる分布 ⑩産業の構成とその変化 ⑪結びつきを強める世界と日本	○ 自然災害と防災、開発と環境保全に関する具体的な事例を豊富に取り上げ、自分たちの暮らしとの関わりについて関心と考察を深めるように構成しました。(第4号) ○ 世界の人口と日本の人口の特色に関する、分布図や人口構成などの資料を読み取る作業を通して、世界からみた我が国の地域的特色を理解できるようにしました。(第1号) ○ 世界にエネルギー資源や鉱産資源が不均等に分布する中で、我が国が資源の大部分を海外からの輸入に頼っており、消費大国でもあるという現状から、地球の有限性に気づかせ、国際的な合意と協力が必要であることに気づかせるように構成しました。(第5号)	Op.138～149 Op.150～153 Op.154～155

教科書の単元構成		特に意を用いた点や特色	該当箇所
第2編 日本のさまざまな地域	第3章 日本の諸地域 1節 九州地方 2節 中国・四国地方 3節 近畿地方 4節 中部地方 5節 関東地方 6節 東北地方 7節 北海道地方	○ 現代の日本の各地の様子や、そこに生きる人々のすがたを豊富な写真資料を中心に取り上げ、人権・平和・環境・文化などの普遍的な概念について理解と考察を深めるようにしました。〈第1号〉 ○ 各地の地域おこしの事例を通して、地域社会が抱える課題と、地域を活性化するための人々の工夫や努力について考察を深めるようにしました。〈第3号〉	Op.162～249  Op.162～173, 180～181, 196～197, 236～237, 246～247
	第4章 身近な地域の調査	○ 公共的な活動や政策に取り組む人々の様子を取り上げ、活動の内容や人々の思いに触れる学習を通して、社会形成への参画意識を高めるように配慮しました。〈第3号〉	Op.252～265
巻末：用語解説 世界の国々のあらまし 日本の都道府県のあらまし		○ 学習資料として、本編と結びつき学習の内容を深める用語の解説や、世界及び日本の統計資料を掲載して、生徒が自ら調べたり確認したりできるように工夫しました。〈第1号〉	Op.266～275

## 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本教科書は、教育基本法に示された義務教育の目的や、学校教育法に示された義務教育の目標などを達成するために、特に以下の点に意を用いて編修しています。

### 特色1 見やすく、わかりやすい紙面

- \* 教科書の紙面は、ワイドで見やすいA B判を採用し、授業展開や学習の見通しがつかみやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成しています。
- \* 興味・関心を高める写真・地図などの資料も豊富に、かつ効果的に配置しています。

### 特色2 小学校の地理学習との接続・関連

- \* 第1章の直前に設けた「地理にアプローチ」では、小学校で学習した地図やグラフに関する基礎的な知識を確かめる作業活動を位置づけ、中学校第1学年へのスムーズな接続が図られるようにしています。

### 特色3 学びのユニバーサルデザインの実現と環境への配慮

- \* カラーユニバーサルデザインや特別支援教育への対応…色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字などの工夫により、全ての生徒にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。カラーユニバーサルデザイン（CUD）は、第三者機関による審査及び認証を受けています。
- \* 環境への配慮…教科書の印刷にはグリーン電力を使用し、地球環境への影響を少なくするよう配慮しています。また、再生紙と植物油インキを使用しています。



▲p.200「産業が活発な地域」

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-76	中学校	社会科	社会 (地理的分野)	第1～2学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	地理 726	<b>中学社会 地理 地域にまなぶ</b>		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、学習指導要領に示された社会科の目標及び内容、内容の取扱いに準拠しつつ、教科と地理的分野の改訂の要点などをふまえて、特に以下の点に意を用いて編修しています。

### ◆ 「地理的分野の改訂の要点」からみた特色

#### ① 習得—活用—探究 の考え方を基にした 内容構成

- 全体を「世界」と「日本」の二つの編に大きく分けました。各編については「習得—活用—探究」の考え方を基に、①地域構成、②世界各地の生活の多様性・日本全体の大観、③諸地域の地域的特色、④調べ学習という、章立てで構成しました。こうしたことで、**学習内容や学習活動を段階的に発展、深化できるように構成しています。**
- 「探究」にあたる調べ学習の部分として、特に第2編・第4章の「**身近な地域の調査**」では、**地図の活用に関する基礎的な知識・技能を確かめながら、生徒が生活している地域の発展に努めようとする、社会参画の視点を取り入れた学習が深まるように工夫しています。**

① 地域をながめて ▶ 地域を歩いて野外観察しよう

調査のポイント ● 身近な地域をあらためて観察するには、どのような視点や方法、進め方があるのでしょうか。

地域調査の手引き ● 野外観察の主な視点  
①自然環境(地形や植生など)の様子はどうか。  
②身近な地域をあらためて観察するには、どのような視点や方法、進め方があるのでしょうか。

身近な地域を見直そう ● 私たちは、愛知県名古屋市に住んでいる中学生です。これまで、世界や日本のさまざまな地域について学んできました。そのうえで、私たちの暮らす地域を見つめ直してみたいと思います。私たちは、身近な地域がどのような地域的特色をもっているのかを明らかにするために、計画を立てて、調査を進めることにしました。

高い場所から ● 小学校の時に学習した地域調査を思い出

② 地図の活用 ● 私たちは、愛知県名古屋市に住んでいる中学生です。これまで、世界や日本のさまざまな地域について学んできました。そのうえで、私たちの暮らす地域を見つめ直してみたいと思います。私たちは、身近な地域がどのような地域的特色をもっているのかを明らかにするために、計画を立てて、調査を進めることにしました。

③ テーマの決定 ● 野外観察で見つけたことや疑問点などをカードに書き出し、内容の近いカードを集めて分類をする。その分類をもとに調べたい項目を話し合う。

④ テーマ別の調査 ● 調査テーマに従って調査を行う。調べたい項目を話し合う。

⑤ 地域調査の手引き ● 調査全体の見直しを立てる  
①地形図の利用 ● 地形図や地形図を使って地域の様子を読み取り、クラス全体での地域観察のルートを決める(資料目録)。  
②地域の観察 ● 選んだ地域観察のルートをたどり、1回目の野外観察に出かける。  
③テーマの決定 ● 野外観察で見つけたことや疑問点などをカードに書き出し、内容の近いカードを集めて分類をする。その分類をもとに調べたい項目を話し合う。  
④テーマ別の調査 ● 調査テーマに従って調査を行う。調べたい項目を話し合う。

▶ p.252～253「地域をながめて」



地理にアプローチ ▶▶ 地球儀から方位を知ろう

- (1) テープを直角に貼り合わせる。
  - (2) 方位を知りたいところに、貼り合わせたテープの中心を置く。
- ★ テープを経線に合わせると、直角にはり合わせたテープの左側が西、右側が東の方位になります。



▲p.20 「地球儀から方位を知ろう」

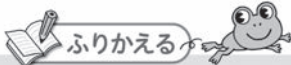
② 地理について  
考察する力や  
説明する力の育成

● 地理の学習の冒頭にあたる、第1編の第1章・第2章にも適宜「地理にアプローチ」を設け、方位や距離などの**基礎的な知識の習得**、世界の略地図の描き方などの**基本的な技能の習得**について、作業活動を通して理解が深まるように配慮しています。同様に、第2編の第1章・第2章にも、時差の学習や、自然環境と関連づけた地形図の学習に「地理にアプローチ」を設け、その後の日本の「諸地域」学習の一助になるように工夫しました。

● 社会科の基礎的・基本的な技能の習得を図るために、本文の学習の流れに即して「読み解こう」のコーナーを設け、具体的に資料を読み取りながら、考察する学習活動を重視しました。写真・地図・グラフなどの多様な資料について、具体的な手がかりや問いかけをもとに取り組みなかで、**資料活用を中心とした読解力が身につく**ように配慮しています。



▶▼p.205 「先進的な第一次産業」



- ふりかえる
- ステップ1 東海地方における施設を利用した園芸農業が成り立っている条件をまとめよう。
- ステップ2 中部地方の第一次産業が抱える悩みや工夫についてまとめよう。

● 本文の学習ごとに、学習課題と対応させた「ふりかえる」のコーナーを設けました。この時間で学習したことをもとに、「ステップ1」では基礎的事項の確認・整理、「ステップ2」では地理的事象についての説明や話し合いなどの表現活動と、段階的に取り組めるように工夫しています。

● 章や節などの末尾に「学習のまとめと表現」のページを設けました。学習してきた地域について、再度地図を用いて整理したのち、設定されたテーマについて**自分なりの言葉で説明する**活動を取り入れました。

③ 地域的特色に関わる  
学習の重視

● 二つの編に位置づけられた、中項目(3)に示された「諸地域」の学習については、教科書総ページ数の半分以上を充て、重点化して取り扱いました。学習の中核となる、各編の第3章、「世界の諸地域」「日本の諸地域」については、学習指導要領に示された世界の六つの州に、日本は七つの考察の仕方ごとに、それぞれ節で区分し、各々の内容をまとまりしてとらえやすいようにしました。

④地図の活用を中心とした地理的技能育成の一層の重視

- 各編の第3章各節の最初の見開きページには、世界の各州や日本の地方の地勢図を掲載し、適宜参照できるようにしました。
- 地形図に関しては、第2編で扱い、まず第2章の自然環境の学習と関連づけて触れることとし、第3章の「諸地域」の学習でも活用しやすいようにしました。さらに第4章の「身近な地域の調査」でも学習に即して位置づけています。
- 第2編・第2章の「日本の国土の広がり」「日本の領土をめぐって」の学習では、我が国の領域を大観するための地図をまず提示し、次に北方領土・竹島や尖閣諸島の位置や範囲について、歴史的経緯も踏まえた本文記述と併せて、位置図・拡大図と写真も用いて詳しく理解しやすい構成としています。⇒ p.128-131

⑤地域調査における「学び方」と言語活動の充実

- 各編・第4章の地域調査では、生徒が調査した過程を再現する構成・記述とし、調査活動のモデルケースとして他地域においても活用できるようにしました。特に、調査活動に必要な視点と方法については、「地域調査の手引き」として位置づけ強調しました。また、調査結果を整理し、生徒同士で考察したことを表現させる言語活動や、「身近な地域の調査」では、発表会に地域の方々を招いて意見の提案をすることにより、地域社会への参画を図るように留意しました。

◆「教科書の構成や造本」からみた特色

①基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図る構成

- 本文紙面は、ワイドで見やすいA B判を採用し、授業の流れや学習の見通しをつかみやすいように、1時間の授業を見開き2ページで構成しました。左上の部分に、学習の導入となる資料を配置し、キャラクターの問いから学習を展開していく形式としています。



▶ p.238 ~ 239  
「自然改変の歴史をもつ地域」



**1 多様な自然環** かん

学習課題 九州地方は、どの

◆カルデラ：火山の活動によってできた、大きくかん没した円形の地形を指します。スペイン語で「なべ」を意味する言葉です。

▲p.162

●タイトルには、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるようにしました。

●学習の導入となる資料を補足・説明し、本文内容との接続をはかる「見てみよう」により、スムーズに本文に進んでいけるようにしたほか、小見出しと太字の重要語句から学習のポイントをつかみやすいように工夫しています。

●難解な用語や補足説明の必要な箇所には、注による解説を設け、生徒への一助となるように配慮しました。本文中には、資料との関連を示す番号や、前出・後出箇所との関連を示す参照ページ、右ページ下に関連ページも挿入しています。

**2 個に応じた学びへの対応**

●本文の学習から興味や関心を広げていくコラム「地理の窓」や、世界の各州や日本の各地方での事例をもとに、今日的な課題に迫る特設ページを設け、個に応じた学びへのアプローチも保障しています。

**地理の窓 釜石の津波防災教育の取り組み**

釜石東中学校では、以前から津波防災教育に取り組んできました。東日本大震災の時には「災害から自分の命を守る」「過去の津波災害の歴史や知恵を学び、防災文化を伝える」「地域の一員としての自覚を高め、助けられる人から助ける人になる」という意識に基づくふだんからの学習が大いに生かされました。中学生が震災時に保育園児や小学生たちを手助けしながら避難する姿を見て、避難した地域の方もいたそうです。このことは、防災教育が学校だけでなく、地域社会、関係機関との連携があって成り立つことを物語っています。

▲p.149 「釜石の津波防災の取り組み」

現代日本の課題を考えよう

**アイヌの人たちの文化にまなぶ**

北海道などには、独自の言語や民族文化をもつ先住民のアイヌの人たちが暮らしています。現在の北海道の地名などにも、アイヌ語に由来するものがみられます。アイヌの人たちの歴史や文化を知り、日本社会における多文化の共存について考えてみましょう。

員の育成の北の北海道は、私たちの先祖の自由の土地でありました。天啓の朝に豊饒の地に、美しい大自然に抱かれてのんびりと暮らしていた彼等は、真に自然の恵み。何となく幸福な人々でもあったでしょう。

冬の朝には、林野を打つ雪を眺めて、天地を揺らす寒気を物ともせず山又山をふみ越えて狩を狩り、夏の朝には、涼風を浴びて、白い霧の空を手に、木の葉の緑な小舟を浮かべて、おぼろげな光を眺めて、任然と舟は、霧らかな風を吹びて、永久に響く小舟と舟に寄り添って、霧と暮らした。

紅雲の秋は、野分に響くうすきをかけて、青まてける霧を眺め、谷間に吹く風を手に、山に響く鳥の音を。

◎チカップ農事子さん (1948-2010)

◎数巻草書 (1903-1922)

◎アイヌ文様のターン (チカップさんによる)

それぞれ、アラモレウ(一つ)の模様を、ウレンモレウ(二つ)の模様を、シツクワヌモレウ(角になっている模様)

▲p.248 「アイヌの人たちの文化にまなぶ」

**3 人と環境に優しい教科書づくり**

なぜ、こんなに大規模なかんがい施設があるのかな。

▲よみやすさに配慮した改訂の工夫

●色覚等の特性をふまえ、すべての生徒にとって学びやすいカラーユニバーサルデザイン (CUD) や特別支援教育の観点に配慮し、判読しやすい配色や表示の仕方、文字の形状 (UDフォント) などを採用しています。

●巻頭5の「触れて読む地図を知っていますか？」では、体感できる点字の加工を施し、共に生きる社会のあり方について関心を高めるように工夫しています。

●点字のしくみ ~ 実際に触って読んでみよう

点字とは、視覚に障がいのある人が、指先で触れて読む文字です。縦3点・横2列の合計六つの点を組み合わせて配置すること(図の①~⑥で一つの単位)で、文字を表現します。文章は横書きで示され、左から右へ読んでいきます。

「①・②・④」の点で母音を、「③・⑤・⑥」の点で子音を表します。

ち い き に ま な ぶ

「が」などの濁音は、2マス使って表します。

●教科書の印刷には、バイオマスで発電されたグリーン電力や、再生紙・植物油インキを使用し、環境への負荷を少なくするよう配慮しています。

## 2. 対照表

教科書の単元配列	【配当時間数】	学習指導要領の内容	該当箇所
巻頭：世界のさまざまな風景 ―世界遺産 地理の学習を始めよう	【1】	(1)ア, (2)ア	巻頭①～② 巻頭③～④
<b>第1編 世界のさまざまな地域</b>	<b>【55】</b>	(1)	p.11～120
<b>第1章 私たちの地球と世界の地域構成</b> [地理にアプローチ] 世界の略地図を描こう	<b>【6】</b> 1	(1)ア	p.11～21 p.22
<b>第2章 人々の生活と環境</b> 学習のまとめと表現	<b>【9】</b> 1	(1)イ	p.23～39 p.40
<b>第3章 世界の諸地域</b>	<b>【35】</b>		p.41
1 アジアの多様性と経済発展 学習のまとめと表現	7 1	(1)ウ (ア)	p.42～55, 57 p.56
2 アフリカの人々の暮らしとその変化 学習のまとめと表現	4 1	(1)ウ (イ)	p.58～65, 67 p.66
3 統合を強めるヨーロッパの国々 学習のまとめと表現	6 1	(1)ウ (ウ)	p.68～79, 81 p.80
4 世界に大きな影響力をもつ北アメリカ 学習のまとめと表現	5 1	(1)ウ (エ)	p.82～91, 93 p.92
5 南アメリカの開発と環境 学習のまとめと表現	4 1	(1)ウ (オ)	p.94～101, 103 p.102
6 他地域と結びつくオセアニア 学習のまとめと表現	3 1	(1)ウ (カ)	p.104～109, 111 p.110
<b>第4章 世界のさまざまな地域の調査</b>	<b>【5】</b>	(1)エ	p.112～120
<b>第2編 日本のさまざまな地域</b>	<b>【64】</b>	(2)	p.120～250
<b>第1章 日本の地域構成</b> [地理にアプローチ] 日本の略地図を描こう	<b>【6】</b> 1	(2)ア	p.125～135 p.136
<b>第2章 世界からみた日本のすがた</b> 学習のまとめと表現	<b>【12】</b> 1	(2)イ (ア)～(エ)	p.137～159 p.160
<b>第3章 日本の諸地域</b>	<b>【38】</b>	(2)ウ	p.161
●日本の諸地域① 日本の西南部			p.162～173
1 九州地方 ―環境問題と環境保全を中心に考えよう	5	(2)ウ (イ)	
2 中国・四国地方 ―人口や都市・村落を中心に考えよう 学習のまとめと表現	5 1	(2)ウ (オ)	p.174～185 p.186
●日本の諸地域② 日本の中央部			p.187
3 近畿地方 ―歴史的背景を中心に考えよう	5	(2)ウ (イ)	p.188～199
4 中部地方 ―産業を中心に考えよう	5	(2)ウ (ウ)	p.200～211
5 関東地方 ―他地域との結びつきを中心に考えよう 学習のまとめと表現	5 1	(2)ウ (キ)	p.212～223 p.224
●日本の諸地域③ 日本の東北部			p.225
6 東北地方 ―生活・文化を中心に考えよう	5	(2)ウ (カ)	p.226～237
7 北海道地方 ―自然環境を中心に考えよう 学習のまとめと表現	5 1	(2)ウ (ア)	p.238～249 p.250
<b>第4章 身近な地域の調査</b>	<b>【8】</b>	(2)エ	p.251～265
巻末：世界の主な家畜・主な鉱産物 世界の主な農産物	計120		巻末① 巻末②～③

# 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-76	中学校	社会科	社会 (地理的分野)	第1～2学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 ―― 教出	地理 726	<b>中学社会 地理 地域にまなぶ</b>		

ページ	記 述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに示す事項
139	なぜ、日本では地震が多く起きるのか	2	内容(2)イ 世界と比べた日本の地域的特色 世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域 的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面 から大観させる。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数 1)

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容